

● 会長挨拶 岩堀吉一〈あきしま・街づくり市民会議・なかがみ〉



▲2017 年度会長 岩堀吉一さん

私たちの会「あきしま・街づくり市民会議・なかがみ」は、JR青梅線中神駅の南側、昭島市自治会連合会の第5及び第6ブロックの区域内に居住する住民を対象に、「住民みんなのための住民自身によるまちづくりを進める」という願いをもって、平成15年11月に誕生しており、地域での活動歴も14年目を迎えることができました。区域内の住民の方であれば、いつでも自由に参加することができる会でありまして、防犯防災、国際交流、芸能など、テーマごとに、現在8つの部会があり、各部会が自治会、市、消防、警察、学校など地域内の組織・団体と連携をとるなどして、いろいろな活動に取り組んでいます。私たちの会は、「住民みんなのもの」との考えで、地域に役立つ・喜ばれる活動を心掛け、その活動状況を、広報部が毎月1回発行している「まどあかり」紙で広く地域の方々にお知らせしています。

地域の課題は多岐にわたりますが、自分たちでできることは自分たちで、解決していくという取り組みが大事なことであり、これに、住民の参加や他団体の協力を得るなどして、私たちの会は、これからも取り組んでまいります。

(あきしま・街づくり市民会議・なかがみ 会長 / 岩堀吉一)

● 国際交流の集い 徳田陽平さん熱く語る

7月22日国際交流部会主催の「国際交流の集い」に於いて、講師である徳田陽平さんは、ライフワークとして長年にわたって携わってきたボランティア活動について熱く語られた。講師は現在「アジア青年会」を主宰し、会長としてアジア諸国から来日している若人たちに精神的、経済的に大きな支えになっておられる。その動機となったのは父からの一言「自分のやるべき事をやれ」であった。

具体的には、一台の古自転車をロシア人の青年に無償提供し、その代わりにロシア語を教わったことに始まる。それを伝え聞いたアジアの来日留学生達からも古自転車を所望されるようになり、その数は700台にも達したという。そこで「バイククラブ」を設立し、彼等との交流が盛んになっていった。彼等は金にゆとりがない。アルバイト等で稼いだ金を本国へ送金する。従って「ギブ&テイク」でなく「ギブ&ギブ」となった。



▲講演者の徳田陽平さん



▲熱心聞く国際交流部会のみなさん

現在では「アジア青年会」で、異国での不慣れな生活に助言を与えたり、日本語教室や英語教室を開き国際交流を深めており歌や音楽演奏を加えて楽しい時を過ごされているとのこと、特に彼等から感謝の気持ちに遭遇すると、講師は自身も大きな喜びを感じるという。忘れてはならないと強調されたのは、日本は地震国でありながら、日本には詳細に報道されていない海外の大地震の惨事である。スマトラ沖地震(2004年)で約30万人死亡、中国の四川省地震(2008年)で約10万人死亡、ネパール地震(2015年)で約8500人死亡、等である。これらの地震の際には、八王子駅で

募集活動を行い、111万円を集め寄付した。そのうち75万円をネパールへ行って直接困窮者に手渡した。講師は最後に感慨に耽りながら以下の言葉で締めくくった。「今思えば貧乏だった青年時代に父の一言に支えられて、逆境の中から今日あるのは幸運としか言いようがない。感謝、感謝である。」と、徳田さんは熱く語った。

(国際交流部会 / 面田真和)